

バイオマス利活用施設の概要

作成日：平成 19 年 8 月

作成者：(株)エックス都市研究所

	【施設名称】 小山広域クリーンセンター
	【事業主体】 小山広域保健衛生組合
	【所在地】 栃木県小山市
	【運転開始年】 平成 16 年
原材料および利用量	し尿・汚泥（発生量：150kl/日） 生ごみ（発生量：1.2t/日）
生産物（種類）	汚泥発酵肥料「すくすく君」（生産量：30.5 t / 月）
利用方法	住民に無料配布
導入目的・経緯	近年、廃棄物処理の基本方向として、ごみの排出抑制と資源としての有効利用が求められている。こうした社会情勢を踏まえ、持続可能な循環型社会システムを目指す。
設備仕様	水処理設備（膜分離高負荷脱窒素処理設備、他）、汚泥処理設備、たい肥化処理設備、専用90リットルポリバケツ（キャスター付）250個、（施設外）バキュームカー32台（実働28～29台での施設処理能力：191kl/日）、トラック4台、90リットルポリバケツとトラック4台での施設処理能力：1.4t/日
稼働状況	施設内機器は24時間フル稼働。従事者は8時間×5日/週
経済性関連データ	施設整備費：4,163,180千円 補助事業名：汚泥再生処理センター整備事業 交付主体：国
導入効果	当初、たい肥の需要量が不明で、その処分に不安があったため、マスコミや各市町の広報、施設見学会の開催などで繰り返しPRを行い、施設名称やたい肥の愛称も公募するなど、住民参加型の取組が推進できた。
運営上の課題	稼働率を上げ、生産コスト、維持管理費は下げたい。また、たい肥に異物が混入しないように配慮が必要。
備考・参考資料	関東農政局 都県別バイオマスの取組事例